

## 平成 20 年度予算編成方針

習志野市長 荒 木 勇

### （国の予算と地方財政）

国は、平成 20 年度予算を、歳出改革を軌道に乗せる上で極めて重要な予算と位置づけ、これまでの財政健全化の努力を今後も継続していくとしている。このため、引き続き歳出全体にわたる徹底した見直しを行い、歳出の抑制と予算配分の重点化・効率化を実施し、基礎的財政収支の改善を図り、国債発行額についても極力抑制するとしている。

また、国と地方間のバランスを確保しつつ、財政健全化を進めることとし、地方財政については、平成 20 年度の地方財政計画について所要の地方財政措置を講ずるにあたり「基本方針 2006」に則った最大限の削減を行うこととした。

更に、国の歳出の徹底した見直しと歩調を合わせつつ、地方団体の自助努力を促していくことを進め、地方公務員人件費、地方単独事業の徹底した見直しを行うこと等により地方財政計画の歳出規模を引き続き抑制するとし、地方交付税等については、地方交付税の現行水準、地方の財政収支の状況、国の一般会計予算の状況等を踏まえ、適切に対処するものとした。

このことは、本市をはじめとする基礎自治体の行財政運営は、もはや国に頼ることなく真の自立のもとで行うこと、という国からの宣告である。

### （これまでの取り組みと平成 20 年度の財政見通し）

これまで本市は、行財政改革に積極的に取り組み、近年の経済情勢の悪化と停滞に伴う様々な地方財政への影響を乗り越え、本市のまちづくりの理念である「文教住宅都市憲章」に基づき、市民本位のまちづくりに邁進してきたところである。

最近では、平成 16 年度から導入した庁内分権型予算による予算編成改革や、平成 18 年 3 月に策定した集中改革プランに基づく、職員数の削減や給与構造改革による人件費の抑制、事務事業の見直しなど、職員が一丸となって取り組んできた「改革と見直し」の成果は大きく、国・地方を巡る財政状況の急激な悪化にも対応してきた。

しかしながら、平成 20 年度の本市の財政見通しでは、自主財源の根幹を成す市税収入は、三位一体改革に伴う税源移譲により、大幅な増加となった昨年度のような増収は見込めず、基金からの繰入や未利用地の売却などの臨時的な財源も年々活用が困難な状況となってきた。

また、依存財源においても、地方交付税改革の推進の影響により、年々、普通交付税額及び臨時財政対策債の総額が減少しつつあり、国県支出金の削減傾向とも合わせ、財源確保はより厳しさを増している。

一方、歳出では、扶助費や公債費などの増加に加え、公共施設の老朽化に伴い、施設の維持管理経費等の増加傾向が顕著となっている。今後は、急速に進展する少子・高齢社会への対応や安全で安心なまちづくりの実現などに多額の財政需要が見込まれるところである。

このような歳入歳出の見通しから、平成 20 年度予算は非常に厳しい予算編成となることが見込まれる。

( 予算編成の基本方針 )

このように厳しい財政状況であることを十分に認識する中、これまでの行財政改革を一段ステップアップさせ、ヒト・モノ・カネの経営資源を戦略的に配分することにより、これまで以上の効率的、効果的な行財政運営を実現することをめざし、平成 20 年度からの体制整備を図ることとする。

平成 20 年度予算は、本市の新たな発展の第一歩を踏み出す、後期基本計画の初年度であり、マニフェストの実現に向けた重要な予算である。各職員は、それぞれが抱えている諸課題に果敢に取り組み、叡智を結集し、市民の期待に十分に応えるよう全力をあげて予算編成に臨んで欲しい。

平成 20 年度予算は、以下の項目を基本的な方針として編成する。

- 1 . 集中改革プランの確実な実現を図り、財政の健全化を推進すること
- 1 . 子育てが安心してできるまちをめざし、こども園構想を推進するとともに、子育て支援環境の充実を図ること
- 1 . 市民生活の実情を十分に斟酌し、全ての世代、あらゆる分野において安全で安心な生活を実感できるように、セーフティネットの構築をめざすこと
- 1 . 小・中学校の耐震補強工事などの教育環境を整備するとともに、放課後児童会の充実など、時代のニーズに適切に対応した教育施策を実施すること
- 1 . J R 津田沼駅周辺のまちづくりをはじめ、市民生活に密着した都市基盤整備を推進すること

この基本方針のもとでまちづくりを推進していくうえでは情報開示、説明責任、市民と行政のキャッチボールコミュニケーションの徹底を図るものとする。

また、事業の取捨選択にあたっては、行政の果たすべき役割を十分に検討するとともに財源の確保に努め、事業の実施にあたっては、市民との協働や民間活力の導入を進め、最少の経費で最大の効果をめざすこととする。

( 平成 20 年度予算編成に向けて )

去る 10 月 1 日の第 168 回国会で、福田内閣総理大臣が行った所信表明演説の「むすび」において、「現在の我が国が、大きな時代の変化の中で、様々な面で見えない不確実な状況下であり、このような時にこそ、将来のあるべき日本の姿を見据え、国民の目線に立つ改革を「自立と共生」を基本に、実行していく。」との表明があった。私自身も、この考えに大いに共感し、「老いも若きも、大企業も中小企業も、そして都市も地方も、自助努力を基本としながらも、お互いが尊重しあい、支え、助け合いながら、若者が明日に希望を持ち、お年寄りが安心できる。」そのようなまちづくりを進めていきたいと考えている。

職員一同は、この私の思いを念頭に、鋭意、予算編成に当たられたい。

( 予算編成要領 )

予算編成にあつては、別途、予算編成要領を通知する。